

○西讃地域には集乳団体が2つあり、それぞれに生乳品質等の生産者指導体制が整備されていた。一方、乳業メーカー（消費者）からの生乳への安全安心対策への要望は高まっていた。

○そこで、関係機関（生産者代表含む）が一堂に会した組織を編成して、生乳生産管理チェックシートに基づく、指導や農家の改善意欲の向上に努めた結果、生乳の品質が向上し、生産環境が改善された。

### 具体的な成果

1 「搾乳作業手順確認パネル」、「バルク乳の細菌検査」や「搾乳システム点検」等、**検討会メンバーの得意分野を生かした技術指導により乳質が改善した。**

#### ①体細胞数

H24年：31.5万個 → H28年：28.1万個

2 検討会による**チェックシート巡回と「改善依頼書の発行」、生乳処理室整頓の重点指導**等により、**搾乳室の改善が進んだ。**



3 普及センターの「**園芸用資材による暑熱対策実証**」などにより、効果的な**飼養環境改善技術の導入が進んだ。**



屋根散水と舎内噴霧の併用で、**平均（7時～19時）4.3℃（最大8.5℃）の温度低下効果**

4 「**酪農女性の会**」を**発足**、牛乳風味の消費者調査など、**女性目線での活動に取り組んだ。**



### 普及指導員の活動

平成24年度

■**関係機関を一本化した「生乳安全安心確保検討会」**を編成、**総合的な指導体制**を確立した。



平成25～26年度

- ①パネルによる「搾乳作業改善指導」
- ②細菌検査による「乳房炎対策指導」
- ③改善依頼書による「チェックシート記帳改善」
- ④搾乳機器の「業者点検」の実施

平成27年度

- ①パネルによる「搾乳手順の見直し指導」
- ②搾乳室の「一斉整頓期間」の実施

平成28年度

- ①「搾乳室の整理整頓」の重点推進
- ②「酪農女性の会」を発足。酪農家女性による安全安心の取組推進

### 普及指導員だからできたこと

・日頃から連携している酪農組合代表、JA、家畜診療所、家畜保健衛生所等の**関係者を結びつけ、相互の役割を分担して効率的な体制による統一的な支援により、生乳の安全安心の取組みが進んだ。**

・専門技術を持ち最新の技術を知る普及指導員だからこそ、**新たな技術改善を提案、農家の意識を改革し、自ら行える改善方法を定着させることが可能。**

香川県

## 生乳生産管理チェックシートなどによる組織的な生乳安全安心の確保

活動期間：平成 24 年度～継続中

### 1. 取組の背景

西讃地域は、集乳団体が 2 つあり、それぞれに生乳品質等の生産者指導体制が整備されていた。一方、乳業メーカー（消費者）からの生乳品質への要望は高まっていた。体制整備の結果、県下の生乳流通体制は、平成 27 年 6 月に一本化された。

### 2. 活動内容（詳細）

#### 1 「生乳の安全安心確保検討会」を編成

普及センターでは、それぞれに支援・指導していた酪農生産者への指導体制を一本化し、効率的な体制による「成果主義」を念頭に、関係機関を組織した検討会を平成 24 年に編成した。

翌年度には、生産者団体代表の 2 名を加え、生産者の声を反映させた。

平成 24 年度当初の会の名称は、「乳質改善検討会」であったが、搾乳環境など乳質以外の幅広い内容となったため、平成 28 年度より「生乳の安全安心確保検討会」と改めた。

#### 2 取組み重点項目の設定

年度ごとに「重点項目」を設定して取組み、年度末の検討会で取組実績を検討し、翌年度の重点項目を設定することにより実績を積み上げた。

#### 3 「生乳生産管理チェックシート」に基づく現地確認及び指導

チェックシートは、生乳生産の安全・安心のために実施すべき重点管理基準を酪農家が自らチェックし改善に取り組むものだが、このチェックシートに基づき関係機関による巡回指導の際に現地確認し、改善が必要な場合には、さらに指導事項を書面で指導することにより、改善精度を高めた。

#### 4 飼養環境の改善指導

##### 1) 暑熱・防寒対策指導

搾乳牛は暑熱、子牛は寒冷のストレスによって生産性に影響を受けやすいことから、暑熱・防寒対策資料を作成配布し、実施状況の確認を行った。

##### 2) サシバエ対策指導

近年、発生が増加し、病気の媒介やストレスとなるサシバエ対策を進めるため、防除対策の資料を作成・配布するとともに、捕獲器具数種の実証を行ない、効果的な防除器具の普及に努めた。

#### 5 「酪農女性の会」の設立と活動支援

搾乳作業は夫婦共同の場合が多いため、女性目線での生乳品質等の改善に向け「三豊・観音寺酪農女性の会」を発足し、女性目線での活動を行った。

### 3. 具体的な成果（詳細）

#### 1) 「搾乳作業手順確認パネル」と同チェックシートによる搾乳作業の改善

（関係組織：2生産者団体、県農業共済三豊支所、三豊家畜診療所、西部家保西讃支所、西讃農業改良普及センター）

体細胞数等の乳質改善を図るため、「搾乳作業手順確認パネル」を作成・配布、また、H25年度には、希望した農家の搾乳作業に立会し、撮影したビデオで再確認のうえ、手順の確認チェックを行った。

H26年度からは、農業共済から毎年酪農家に搾乳用手袋を衛生対策用に配布し、手袋装着やポストディッピング技術など未実施であった農家が改善された。



#### 2) 搾乳システム「一斉点検」の実施

（関係組織：2生産者団体）

H26年度の巡回指導時に実施した搾乳システムの点検状況確認結果に基づき、H27年度には、2生産者団体を中心に、酪農生産基盤確保事業を活用した「業者による搾乳機器の一斉点検」を実施した。（点検戸数20戸）

真空ポンプ、授乳装置、バケツ、洗浄装置等の全ての力所で何らかの要修理、要交換が指摘され、生産者にとって定期的な点検の重要性が再認識された。

#### 3) 「改善依頼書」によるチェックシート記帳改善

（関係組織：2生産者団体、西部家保西讃支所、西讃農業改良普及センター）

H26年度から、生乳生産管理チェックシート巡回時に、改善が必要と指示した重要項目について、「改善依頼書」を発行し、書面をもって生産農家に改善を依頼のうえ、関係機関による再度の巡回で改善状況を確認した。

#### 4) バルク乳の「細菌検査」による搾乳衛生環境の改善

（関係組織：西部家保西讃支所、2生産者団体、西讃農業改良普及センター）

「バルク乳や個体乳の細菌検査」を毎年実施し、関係機関等の指導によって、生乳品質と搾乳衛生状況を改善した。

サンプル乳採取及び検査については、県単事業により、西部家畜保健衛生所西讃支所を中心に実施し、その結果により農家指導を行った。また、検査結果の悪かった農家は、個体乳等の検査や重点指導を実施し、細菌数等が改善された。

#### 5) 「生乳処理室一斉整頓期間」による重点指導

（関係組織：2生産者団体、西部家保西讃支所、西讃農業改良普及センター）

H27年度には、JA三豊畜産振興センターを中心に生乳処理室の整頓の重点指導を実施し効果があったため、H28年度には重点推進した。

「生乳処理室の一斉整頓期間」は、JAに設置した産業廃棄物用コンテナに各農家が不要な物を処分した結果、各々の生乳処理室の整頓が大幅に進んだ。

室内が作業しやすくなったためか、これまでできていなかった農家の搾乳室の間仕切りや整頓用の棚の設置まで取り組めた農家もあった。

#### 6) 園芸用資材による「暑熱対策」実証

（関係組織等：実証農家、西讃農業改良普及センター）

H26年度には、普及センターの園芸と畜産担当が連携し、灌水用チューブを用い

た屋根散水を実証し、酪農牛舎内で3℃の低減効果を確認した。

H27年度には、屋根散水に加え、園芸用噴霧装置を用いた場合、牛舎内冷却効果が平均(7時～19時)4.3℃(最大8.5℃)に達することを実証し、飼養環境の改善に向け普及に努めた。

7) 「サンバエ対策」の検証

(関係組織等：検証農家、西讃農業改良普及センター)

H27年度、サンバエ捕獲装置3種類及び忌避剤1剤の検証を2農家で実施し、そのうち効果の高かった捕獲装置の普及に努めた。(H28：導入農家6戸)

8) 「酪農女性の会」の活動支援

(関係組織：2生産者団体、西部家保西讃支所、西讃農業改良普及センター)

H27年度、「三豊・観音寺酪農女性の会」を発足し、意見交換会や乳業工場の見学、牛乳風味の消費者アンケートを実施した。

消費者アンケートは、牛乳の風味を消費者はどう感じているのかを確認するため、三豊市主催の「三豊発！さぬき軽トラ市」で112名の消費者にアンケート調査をした結果、牛乳の風味は乳脂肪率等にかかわらず、消費者の嗜好性によって大きく左右される傾向があった。

#### 4. 農家等からの評価・コメント

(観音寺市 高橋賢二氏 (JA酪農部会長))

牛乳品質や乳房炎等の防除は、即経営につながるものであり、マンネリ化していた状況の取組みが改善された。

また、作業・衛生の環境改善やチェックシート記帳等は、自らの取組みが遅れ気味であったところを強力に後押しいただいた。

現在、暑熱対策の屋根散水と噴霧について、我が家に設置作業中である。

#### 5. 普及指導員のコメント

(香川県西讃農業改良普及センター 副主幹 岸本靖)

酪農に関係する機関や団体を組織化したことで、酪農家のみならず、関係機関の意識も変わり、思っていた以上の成果が得られた。

#### 6. 現状・今後の展開等

生乳生産管理チェックシートは、「生乳生産等の飼養・衛生に関する管理基準」に基づく取組みであり、衛生的な生乳生産及び安全な生乳の供給を目的とするものである。

今後は、GAPに基づく生産工程管理の実施にもチャレンジし、GAP認証取得までの支援を実施したい。